

# 議会だより みなみさんりく



歌津中学校が悲願の初優勝(河北優勝旗争奪南三陸地域中学校野球大会／平成の森しおかぜ球場)

No.20

平成22年11月発行

P 2 特集 21年度決算は2億3千万円の黒字

P 7 指定管理者施設の更新など(議案審議)

P 9 ここが聞きたい(一般質問)

P 14 よりよいまちづくりを(委員会調査報告)

P 15 請願・陳情・意見書

# 特集

# 21年度決算は2億3千万円の黒字

9月定例会は平成21年度決算審査特別委員会を設置し主要施策、各種事業への取り組みや各会計について予算が適切に執行されたかについて審査しました。21年度決算は、実質単年度収支約2億3千万円の黒字となり、このうち1億2千万円を財政調整基金に繰り入れられました。全ての議案は原案のとおり認定されました。

## 1 安全で安心なまちづくり

県沖地震への対応策で漁港等の水門、陸間の整備、防火水槽整備のほか、小型動力ポンプを2台更新しました。

## 2 集いと賑わいのあるまちづくり

観光情報の発信拠点として、街なか交流館の整備、教育旅行の受け入れ体制を強化しました。

## 3 みんなで支え合う健康のまちづくり

高齢者・障害者への福祉サービス等の推進、子育て支援、公立病院の質の高い医療提供と経営健全化を推進しました。

## 4 環境と調和したまちづくり

地域環境保全を意識した、

## 5 知性と豊かな心をはぐくむまちづくり

良好な教育環境確保に学校統合実施、戸倉小学校体育館の建設や各校のグラウンド整備等環境整備を行いました。

## 6 参加と協働が活発なまちづくり

協働によるまちづくり基本指針を策定しました。提案公募型事業「おらほのまちづくり支援事業」に「協働モデル事業」を拡充し、取り組みを進めています。

## 7 戦略的な地域経営の展開

新町建設計画の事業を展開し、限られた資源、人、物、財源、情報を活用した行政改革を推進しました。

町長の決算概要説明について総括的質疑が行われました。

問 財政は健全運営であるが、人口減少、特に若者の流出、定住化対策、子育て支援策など、攻めの姿勢が必要ではないか。

答 住民サービスの低下を招かず政策を展開してきた。人口増は難しく交流人口拡大に取り組んでいる。定住化対策に新規高卒者を雇用した企業への助成金を増額しており成果も出ている。三陸道延伸を視野に、職は町外、住は町内との政策も重要である。

問 公立病院の医師不足への対応策は。

答 現在勤務している医師の中で仕事を分担し、難局を乗り切っていく。開業医と連携をとり町民の健康を守っていく。今後も医師確保に努める。

問 グリーンツーリズムの今後の取り組みは。



答 県内でもトップクラスで評価も高く、宿泊受入れ体制も進んでいる。各地でセールスを展開、誘致活動に努める。

問 国保家庭は低所得者が多く滞納者も多い。一般会計から繰り入れをして税率を下げているか。

答 国保の収支バランスを図って運営するものであり、一般会計からの繰り入れは考えていない。低所得者には軽減

## 平成21年度決算審査特別委員会

### 歳入

問 町税の減額要因と収納率向上対策は。

答 所得の低下による減収である。収納対策室を設置し強化している。

問 滞納が続いている特別土

地保有税の見直しは。

答 債権分としての差し押さえはしているが、根抵当権が設定されているので、債権分の収納は困難である。

問 住民税や各種税収の歳入より、人件費の歳出が上回る事への対策は。

答 人件費は人事院勧告に基本的に従っていく。

問 不納欠損処理の基準と内訳は。

答 財産が無い生活困窮者や所在不明者等である。国保税含め、421件、人員は68人である。

問 町税が減少している中、雇用対策効果はどの程度か。

答 景気の問題もあるが、雇用対策について今後も積極的に検討する。

問 第3期中山間直接支払事業等の実施要件の内容は。

答 第2期からの継続で、新規は認められない。

問 要保護児童援助の中に修学旅行費も入るのか。

答 修学旅行、給食費などの援助である。

### 歳出

#### 総務費

問 志津川病院の病室にはエアコンがなく、この夏の暑さには、患者や職員にとって耐え難い環境であった。今後エアコンの設置予定は。

答 今年度は間に合わないが、来年度の設置に向けて年度内に設計や経費等の検討を行う。

問 病院の新築についての考えは。

答 耐震工事の完了やトイレなど各種施設の環境改善を進めている。現時点で新築の考えはない。

問 防犯協会の活動はどのようになっているか。また防犯灯の設置基準は。

答 防犯協会連合会に5支部が加盟して、それぞれの地域で活動している。助成金は地区の協会に交付している。防犯灯は約40mの距離間隔で設置している。設置には補助金と電気料の助成金を交付している。

問 地上デジタル化移行へむけ難視聴整備事業は進んでいるか。

#### 民生費

問 災害時要援護者支援地区はどのように使われるのか。

答 毎年更新するのか。

問 要支援者のリストを作り、災害時の非難場所を確認し援助するもので、年一回更新している。

問 精神障害者の支援に公共交通機関を利用する際の支援はあるか。

答 減免制度があり、JRや高速道路の割引券等がある。

問 障害者福祉費の扶助費の不用額が多いのはなぜか。

答 扶助費は障害者の施設入所時に受ける訓練費や透析の給付事業などが多く、あらかじめ、不足しないよう予算措置をしている。

問 町の有資格臨時職員の賃



問 要保護児童援助の中に修学旅行費も入るのか。

答 修学旅行、給食費などの援助である。

問 地上デジタル化移行へむけ難視聴整備事業は進んでいるか。



の宿泊施設の選択は学校側の意向か。

答 旅行会社の仲介と予算により学校側の意向を優先している。

問 シルバー人材センターの受託件数の推移と支援策は。

答 事業範囲の制約や国の補



金基準は低いのでは。

答 県内の一般事務と保育士等の動向を見ながら、職員とのバランスをみて、決めている。

問 次世代育成事業支援計画の内容は。

答 子育て支援計画を策定し、具体的な子育て支援を行うものである。

問 地域活動支援センターの

助金が削減方向にあり厳しく、前年度より13%落ちている。公共面での活用等を考えていく必要がある。

問 緊急雇用対策での事業効果は。

答 観光関連事業などを観光協会に委託し成果が上がっている。

土木費

問 入谷横断一号線の進捗状況は。

答 現在調査中で、調査が済み次第説明会を開催し、来年度の事業要望となる。

問 歌津地区では遊具の整備された公園が少ない。整備の考えは。

答 旧志津川町では条例に基づき都市公園として整備してきた。コミュニティ公園として整備を検討する。

問 汐見9号線の改良工事と合わせ排水対策はできないか。

答 排水対策は汐見9号線だけでなく、町道中瀬町線や八幡町方面からの排水もあり、これらを分散する形での総合的な改善が必要となる。

問 木造住宅耐震診断を促進するローラー作戦の効果は。

事業内容は。

答 障害者の相談、訓練、医療の支援などで現在業務を委託している。

問 老人施設が計画されているが、町の支援内容は。

答 土地の無償貸付と、ふるさと融資制度の活用方法がある。

衛生費

問 住民検診の受診率とがん検診の取り組みは。

答 検診率は下がっている。女性特有のがん検診には年齢を刻み受診奨励をしているが伸びていない。

問 新型インフルエンザ予防ワクチンは今年は十分か。

答 混合ワクチンになるが、現時点では国の指針が出ていない。

農林水産業費

問 農業用廃プラスチックの回収は制限があるのか。

答 農業資材、ビニール等に限定される。

問 農地災害復旧工事の内容と助成の最高額は。

答 砂利の撤去が大半で、主として戸倉地区であり、最高額52万8千円を交付した。

災害による海岸漂着物は特別で処分されたが、今後も例外規定の適用はあるか。

答 大量に堆積され、やむを得ない事態になれば同様の処分方法もあり得る。

問 漁業生産の動向は。

答 これまで4年間の水揚げ金額は約50億円から60億円で推移している。

問 耕作放棄地対策協議会の組織内容とその効果は。

答 担当課を含め農業振興事務所、改良普及所のメンバーで構成されており、景観作物等の作付けなどで、一定の復旧効果があった。

問 農業者年金加入数と、その推進効果は。

答 加入者数22名。促進に努めてきたが新規加入者は少ない。

問 家畜特別導入事業の運用状況は。

答 平成17年度以降、繁殖牛を対象に11頭導入があった。

問 海藻群落再生事業での磯焼け実態調査の取り組みは。

答 磯焼けの進んでいる場所を試験区に設定し、継続5年目になる。

問 水産業費における補正額の内容は。

問 126軒訪問し、15軒の申込があった。そのまま耐震改修に繋がるものではないが、現時点で前年度実績の3件に達している。10月にもローラー作戦を実施する。

消防費

問 防火水槽の整備状況は。

答 基準水利は消火栓等を含め447基を予定している。現在の設置率は73%で、残り120基となるが、河川や海も換算に入れるともっと少なくなる。

教育費

問 中学校の就学援助認定者数と今後の見通しは。

答 21年度の準要保護認定者は39人だが、今年度は現在57人である。母子家庭世帯が小学校・中学校を合わせると約75%を占めており増加している。

問 外国人英語助手（AL）は2人で十分か。

答 普段は志津川・歌津中学校に一人ずつの配置で、戸倉中学校は週1日金曜日に勤務する。小学校は4校ずつに分担しており、今後も2人体制でいく。

5年・10年後の児童・生徒数の見通しと対応策は。

答 今年の成人者は295人だが、現在の中学3年生は182人で約100人減少している。また、5年後に中学3年生になる小学4年生は142人で、相当の勢いで減少が進む。学校は適正規模での切

問 5年・10年後の児童・生徒数の見通しと対応策は。

答 今年の成人者は295人だが、現在の中学3年生は182人で約100人減少している。また、5年後に中学3年生になる小学4年生は142人で、相当の勢いで減少が進む。学校は適正規模での切

問 5年・10年後の児童・生徒数の見通しと対応策は。

答 今年の成人者は295人だが、現在の中学3年生は182人で約100人減少している。また、5年後に中学3年生になる小学4年生は142人で、相当の勢いで減少が進む。学校は適正規模での切

移行は来年度終了するが周知は徹底しているか。

答 制度の周知と合わせ、年度間の切り替え促進のPRをしていきたい。

問 教育旅行の中で民泊以外の



問 アナログから地デジへの

問 5年・10年後の児童・生徒数の見通しと対応策は。

答 今年の成人者は295人だが、現在の中学3年生は182人で約100人減少している。また、5年後に中学3年生になる小学4年生は142人で、相当の勢いで減少が進む。学校は適正規模での切

問 5年・10年後の児童・生徒数の見通しと対応策は。

答 今年の成人者は295人だが、現在の中学3年生は182人で約100人減少している。また、5年後に中学3年生になる小学4年生は142人で、相当の勢いで減少が進む。学校は適正規模での切

**討 論**

**反対討論**

大瀧りう子議員  
長引く不況の中、国は経済対策として特別交付金を支給し、かつてない事業が実施された。しかし21年度予算は、各種補助金のカット、施設利用料の見直し、学校給食費の値上げ、さらに介護保険料の引き上げなど町民生活に大きな負担が生じた予算執行である。弱者に温かい町独自の支援を要望し、本案に反対する。

**賛成討論**

山内 昇一議員  
世界経済危機、国内ではデフレ不況が長引く中、経済不況により町民も生活が低迷している。厳しい町政運営の中、今年度、町民の生命、財産を守るため防災行政無線をデジタル化、また戸倉小学校体育館の新規整備に着手など喫緊の地域課題を解決しつつある。今後も、財政健全化と福祉など住民サービス向上に意を用いることを期待し、本案に賛成する。

# 指定管理者施設の更新など

## 議案審議

9月定例会は、9月8日より17日まで開かれ、公の施設の指定管理者の指定などについて審議され、すべて原案のとおり可決されました。

	施設の名称	指定管理者となる団体
1	福祉の里	(福)南三陸町社会福祉協議会
2	志津川デイサービスセンター	(福)南三陸町社会福祉協議会
3	歌津デイサービスセンター	(福)南三陸町社会福祉協議会
4	老人福祉センター	(福)南三陸町社会福祉協議会
5	神割崎キャンプ場	神割観光物産振興組合
6	神割観光プラザ	神割観光物産振興組合
7	ひころの里	ひころレディース
8	水産振興センター	(株)やまと物産
9	南さんりく斎苑	(株)清建

### 公の施設の指定管理者の指定

左表9施設が更新し、指定期間平成23年4月1日〜平成28年3月31日までの5年間で更新するもの。

問 神割崎キャンプ場の計画書の利用料収入が減額されているが、町として指定管理者に努力を促すのも大切では。

答 キャンプ人口が少なくなっている。利用者にダイレクタメールなど、利用促進に努力している。

### 平成22年度一般会計補正予算

1億1,839万4千円を補正し、予算総額7億7,407万6千円とするもの。

問 強い水産業づくり交付金とはチリ中部地震津波災害交付金か。

答 ギンザケのいけすのアンカーを強度の増すものに取り替える事業であり、県漁協が事業主体で取り組むもの。事業費は約945万円であり、国が50%、町が20%、事業主体が30%の負担するもの。

問 激甚災害の指定を受けての補助の進み具合はどうなっているか。

答 カキ養殖施設の被害が対象になると正式な通知があった。現在は漁協が個人の復旧費内訳など精査し調査票を作成している状況である。

問 合併5周年記念事業費の実施計画の内容は。

答 11月3日に記念式典を開催し、町政功労者表彰、町民憲章の制定、宮城大学と地域連携協定の調印式、記念講演を予定している。

問 子育て支援事業費の基本実施設計委託料の内容は。

答 設計委託料で、今後23年7月頃を目途に設計を固める。

問 子育て支援施設、保育所と図書館も併設の計画で、実施設計委託料3,565万円の予定だが、総事業費は。ま



た、地元業者を優先的に考えるべきでは。

答 全体の事業費は約6億8千万円である。この規模の事業では、地元での単体受注は難しいが、合法的な形で柔軟に考えていく。

問 入札は※プロポーザル方式の予定だが、従来のやり方にこだわらず経費的にも十分に検討すべきでは。

答 施設の工法や、設計等については専門的な立場から提案をうけ、より効果的な方法で業務を進めていく。

※プロポーザル方式：業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、企画を提案させ、優れた提案を行った者を選定すること。



### 特別会計

#### 国民健康保険特別会計

問 国民健康保険法の患者負担の軽減・免除制度の周知・活用は。

答 広報等で、周知を図り法に基づいて対応している。

### 後期高齢者医療特別会計

問 短期保険者証が今年発行されたが今後は。

答 納税の勧奨に努め、収納率の向上により発行数の減少につなげたい。

問 国保会計と後期高齢者医療制度の今後は。

答 現在のところ流動的であり、注視していく。

### 水道事業会計

問 今年の猛暑による水不足はなかったのか。

答 問題はなく原水は確保できた。

問 水道料金未収金の内容は。

答 今年度は数万円で、20年以前の合計が300万円の未収金である。

問 石綿管の改良工事の進捗状況は。

答 未整備は3ヶ所で16・5kmあり事業費は約7億円の見込みである。

問 委託による水道の水質調査は十分か。

答 民間委託業者が分析化学センターで、毎月検査している。このほか職員が水源地も

### 病院事業会計

問 整形外科の患者数が対前年度比18・3%、金額で71%減少しているがその原因は。

答 常勤医師が体調不良となり非常勤となったためである。

問 今後の医師招聘の見通しは。

答 個人的なネットワークなども活用して招聘にあたる。

問 病院窓口での未納金はどれぐらいの金額か。

答 約766万円で分納により徴収している。

問 今後の医師減少による職員への影響は。

答 職員は基準数の範囲内であり問題ない。

問 一般会計からの繰入金は今後どうなるのか。

答 21年度は内科医の減少により1億円程度の減収となった。医師招聘を含め目標を持ち、負担の増加を抑える努力をしていく。

### 訪問看護ステーション事業会計

問 職員手当の減額理由は。人事院勧告による賞与減

額のためである。

- 老人保健特別会計
- 介護保険特別会計
- 居宅介護支援事業特別会計
- 市場事業特別会計
- 漁業集落排水事業特別会計
- 公共下水道事業特別会計



# 一般質問

# ここが聞きたい

9月定例会では、5人の議員により8項目について一般質問がおこなわれ、町政全般について、活発な議論が展開されました。



町長 各種制度にて積極的に推進する

## 一問一答

### 若者の働く場の確保と対策

千葉 伸孝 議員

**問** 地元における若者の労働希望は、事務員としての求職が多い。現在の労働力としての町内求人、水産加工工業や電機製造業が多く、若い世代の将来を見据えた、労働ニーズにこたえる企業誘致が求められる。若者に合った雇用の場として、行政の信用・公共

**答** 当町においては現在のところ計画を予定している事業がないので、第三セクターの

性と、民間の農業・漁業などによる効率的・機能的なそれぞれの長所を生かした、物産館などの第三セクター設立による、雇用の場は考えているか。

**問** 指定管理者制度・民間委託業務への町民雇用の働きかけは。

**答** 集中改革プランの推進施策のもと、発注段階から町民雇用の場が確保されるよう、積極的に働きかけを推進していく。

**問** 地元雇用による若者定住と財政は密接な関係があり、働く場の増加と町税収増加へとつながる。この2つの問題に取り組みをしていくのか。

**答** 今後の町財政を展望する上で、雇用の場の確保と定住化対策への取り組みは、重要であり積極的に推進する。限られた財政の中で効率的な財政運営に努め、住民サービスの低下を招かぬように行財政改革を着実に促進し、景気・地方財政の動向を見据え、臨機応変に対応し財政健全化に取り組む。



▲ 地元雇用と若者定住を

## 核兵器のない平和な世界を願う 南三陸町宣言

### 議員提出議案(原案可決)

議員提出議案として、核兵器のない平和な世界を願う南三陸町宣言に関する決議が提出されました。

人類は、恒久の平和を願い、求めながらも、未だに、地球上のどこかで戦火が繰り広げられている。

核軍備の削減が進まず、世界平和と人類の生存に大きな不安と脅威を与えている。

過去に戦争の悲惨さを体験し、殊に世界で唯一の被爆国であるわが国は、核兵器の廃絶と軍備の縮小を希求し、全世界に訴え続けている。

南三陸町は、悠久の年月と先人の努力により、自然を守り幸せな暮らしを営んできた。我々は、この貴重な財産を子供たちに託し、未来永劫に引き継いでいかなければならない。同時に、子供たちに戦争の悲惨さと平和の尊さを教え、伝えていく使命がある。

かけがえのない地球、かけがえのない南三陸町。

南三陸町は、総ての核兵器の保有と開発に反対し、核兵器のない世界の実現と、併せて、人類が平和を求めて手をつなぎ、相互が認め育み合う世界を願い、町民の総意としてここに宣言する。以上、決議する。



### 教育委員会委員の

任命に同意

阿部東夫氏(歌津 石泉)の任期満了による再任命に同意するもの。

### 公有水面の埋め立ての

答申

稲淵漁港公有水面埋め立て

について、知事から諮問され異議がない旨答申。

### 工事請負契約の締結

ばなな漁港沖防波堤及び物揚場工事。

### その他の議案

● 企業職員の給与の種類の基準に関する条例の一部改正

● 平成22年度特別会計補正予算

● 国民健康保険特別会計

● 老人保健特別会計

● 後期高齢者医療特別会計

● 居宅介護支援事業特別会計

● 市場事業特別会計

● 漁業集落排水事業特別会計

● 公共下水道事業特別会計

● 水道事業会計

## 議会の傍聴をしませんか。

12月8日(※予定)から定例議会が開催されます。

● 議会を傍聴する方は議会事務局で、住所、氏名を傍聴受付簿に記入するだけです。

● 日程等詳しいことは議会事務局にお問合せ下さい。

▶ 議会事務局 Tel.46-1375



▲ 旧入谷中学校校舎



**問** 入谷中学校は開校以来62年の歴史に幕を閉じ早いもので1年5ヶ月経った。荒砥小や清水小は既に解体済で新しい事業計画が企てられている。旧入谷中学校校舎は現存のままであるが、解体・撤去はいつされるのか。

**答** 旧入谷中学校校舎は、昭和初期に建築された木造校舎で老朽化が著しく建物を継続しての活用は費用対効果の面から極めて難しいと判断、来年度には解体撤去する。体育館と跡地は企業動向と合わせ地域の意思を伺い有効活用を図る。

**問** 旧入谷中学校校舎活用について進出企業の件で、2回の懇談会（21年4月と5月）があったが、その後全く話がなく本当に見込みのある話なのか、受け入れ側として1年半の間どんな対応策を講じてこられたのか伺う。

**答** 基本的に情報を知らせる状態になってない現実があった。進出企業との話がまとまった時点で話そうと思っていた。再三変更ということでも果たして実現可能なのか大変難しいと思う。

**問** 入谷中学校校舎活用について進出企業の件で、2回の懇談会（21年4月と5月）があったが、その後全く話がなく本当に見込みのある話なのか、受け入れ側として1年半の間どんな対応策を講じてこられたのか伺う。

**答** 基本的な情報を知らせる状態になってない現実があった。進出企業との話がまとまった時点で話そうと思っていた。再三変更ということでも果たして実現可能なのか大変難しいと思う。

一問一答

廃校の入谷中学校の解体はいつか

鈴木春光議員

町長 校舎解体は来年、体育館は残す



▲ 環境整備を急げ

町道松倉1号線と他2路線に係る用悪水路整備は

町長 町と受益者が共同実施する

**問** ※用悪水路の老朽化により損傷著しく、排水機能効果が充分とは言いがたい。用悪水路（公的用水路）の整備計画実施に早急な対応策を図るべきでは。

**答** 町道松倉1号線他2路線に係る用悪水路は、昭和46年～59年度の水田基盤整備事業

※用悪水路：農業用水路等の不動産登記簿上の地目用語。

一問一答

高齢者や子どもの虐待防止対策は

大瀧りう子議員

町長 関係機関と連携し早期発見に努める



**問** 介護放棄や暴力行為などによる高齢者への虐待、また幼児置き去りや食事を与えないなどの育児放棄によって子どもの命が奪われるなど、悲惨な事件が起きている。これらの弱者に対する取り組みが急がれる。当町での実態と取り組みは。

**答** 高齢者の虐待については、介護力不足や介護負担が大きいため介護放棄に繋がるケースがあり、虐待の恐れがあるとされる通報には地域包括支援センターを中心に早期に発見し対処している。子どもの虐待には身体的虐待は見られないが、養育能力



▲ 弱者を守る取り組みを

文化の香る町づくりを

町長 生涯学習の環境づくりに努める

**問** 人はパンのみでは生きられない、豊かな文化にふれることによって、人生はより豊かなものになると言われる。総合計画には「知性と豊かな心を育む町づくり」がうたわれている。町民のニーズに応えた、魅力ある文化活動が構築されているか検証する時期ではないかと考えるが、取り組みは。

**答** 生涯にわたって文化的で心豊かな生活を送るためには、誰でも、いつでも、どこでも学べる生涯学習の環境づくりが重要である。今後も教育委員会を中心に芸術文化の普及、育成、交流事業などを積極的に展開し、生涯学習の環境づくりに努める。



▲ 魅了ある文化活動の構築を

一問一答

高齢者も安心して暮らせる町づくりは

菅原辰雄議員

町長 福祉制度の充実を図る



問 少子高齢化が進み高齢者世帯、独居老人世帯が増加している。隣近所のつきあいや、友人もなく淋しい老後を送る人も多い、誰もが安心して暮らせる環境づくりが必要ではないか。

答 65歳以上のみ世帯が880世帯で総世帯数の16%を占める。元気な高齢者も多いが支援の必要な人が安心して生活できることが大切である。町では介護関連サービスの充実、通院支援サービス等医療機会確保に対する支援、災害時の安全確保や高齢者にはセーフティネットの充実を図っている。9月には70歳以上の一人暮らしの人に自分で保管し緊急時に活用する緊急カードを配布している。又相談窓口の地域包括支援センターは365日24時間受付している。今後も福祉制度の拡充とセーフティネットの周知を図り地域全体として協力するよう呼びかけていく。



▲笑顔で暮らせる環境づくりを

問 孤立化を防ぐために集う機会作りの手伝いは。
答 地区によりお茶飲み会や昼食会を定期的に開催し、健康チエックや栄養指導をして

問 多くの町民が国民年金で入れる老健施設を望んでいる。町として整備できないか。
答 ベット数は介護保険計画で決まっている。気仙沼・本吉地域では増設できない。計画の見直しがあっても町独自では無理である。

活力ある町づくりの方策は

町長 商店街活動へ支援していく

問 町は観光の町をアピール、特に近年グリーンツーリズムや教育旅行に目を向け受け入れ体制作りの推進、各種イベントの企画、支援を行っているが、現段階では観光関連業種への効果である。他業種商店街としてとらえた時、多様な政策対策が必要ではないか。

答 地域経済や他の産業の活力に課題はあるが施設整備の備品調達、宿泊者の飲食物、農家への謝礼等、各種産業に横断的に波及の大きい観光分野に重点を置き取り組んでいる。最大の優位性は、海と山と里のバランスのとれた自然の魅力であり、今後も恵まれた自然や多様な資源を活用し



▲各商店にも観光の波及効果を

観光振興や地域の活力を高めていく。観光は活力を生み出す切り口の一つ、今後は地場産品の商品開発や商店街活動へ支援していく。
問 観光客を広く各商店に呼び込む対策が必要では。
答 各店の自助努力に期待したい。
問 駅前にトイレを望む声が多いが。
答 駅内のトイレを利用しており、正面から出入りできるよう要望している。

総括質問

林業再生と関連産業の振興策は

山内昇一議員

町長 ブランド化を進める



問 林業の経営が低迷し、森林荒廃も進んでいる。地球温暖化の原因となる、世界の経済発展に伴う温室効果ガスの発生には、吸収源となる森林が大きな役割を担っている。この時期に本町での林業再生の活性化対策は。

答 木材価格の低迷で経営意欲も低下、更に、高齢化等で森林施策が全国的にも放置状態である。森林組合と連携し、森林プランナー育成を推進するなど、林業経営者に還元体制を進めていく。
問 大手ハウスメーカーの進

出により、在来工法が激減している。地域資源の地元材活用によって雇用にもつながり、在来工法建築主に祝い金制度を導入してはどうか。
答 従来から公共建築物には地元材を使用している。他市町村では、祝い金制度を実施しているところもあるが、南三陸ブランド材として販売促進や有効活用に取り組んでいる。

問 広葉樹林の中で、近年ナラ枯れも広がっている。自然放置は被害拡大の原因に繋がる。対策として環境税を活用し、計画的に皆伐、萌芽更新で有効活用を図ってはどうか。
答 来年からスタートする県の環境税は、本町配分は380万円で期待した程ではない。良質木材のブランド化は林家の励みになるので、林業の振興に支援していきたい。



▲地域資源・地元材の活用を



▲環境税の有効活用を図れ

委員会  
調査報告

# よりよいまちづくりを

## 防災行政の現状と課題を調査 総務常任委員会

平成22年7月12日町内、7月22日北海道奥尻町において、防災行政について現地調査を行いました。



▲ 災害に強いまちづくりを調査

よる災害の被害を幾度も受けてきた。また、近い将来、高い確率で宮城県沖地震の発生が予測されていることから、大規模災害を想定した防災対策や消防・救急体制の構築・充実を喫緊の行政課題として取り組んでいる。

住民同士のつながりが地域の安全・安心の源泉であることから、地域が主体となった自主防災体制の整備を関係機関と連携し、着実に実行することにより安全で安心なまちづくりを推進する必要があることから、本町の防災行政の現状と課題について調査した。

平成5年7月12日に発生した北海道南西沖地震災害で多数の犠牲者をもたらした、北海道奥尻町の被災の状況及び復興の概要、防災対策の現状と課題について調査した。

○調査結果  
南三陸町で被災した昭和35年5月の「チリ地震津波」

と、奥尻島で被災した平成5年7月の「北海道南西沖地震」の異なる大災害の体験をもとに、両町は地震、津波に強い町づくりに取り組み、他の都市に類を見ない、強固な防災対策を構築している。

本町においては、今後30年以内に「宮城県沖地震」の発生確率が99%、「三陸沖地震」の発生確率が90%と、大規模地震が発生することが予想されており、ハード面においては、遠隔操作による防潮水門の自動開閉システムや陸門、さらには防災行政無線のデジタル化などの施設整備が行なわれてきている点は評価すべきところである。また、ソフト面においては、路面への避難経路表示と高台への経路を表した掲示板を各所に設置している。さらに、自主防災への取り組みとして、地域に「自主防災組織」の設立を推進し、組織づくりの支援として「育成補助制度」を創設

するなど「自助」から「共助」へと、防災意識の高揚に努めている。

今後も地震津波等による自然災害から町民の生命、財産を守るため、住民みずからの防災意識の高揚と地域や関係団体等との綿密な連携がますます重要となってくる。災害に備えた施設整備の更なる充

## 産業建設常任委員会

平成22年8月4日・25日・31日町内、11日亘理町において、産業振興（水産振興の現状と課題）について現地調査

## 民生教育常任委員会

平成22年8月9日町内、入谷小学校、志津川中学校、戸倉小学校、戸倉中学校において、教育行政について現地調査を行いました。

志津川小学校、伊里前小学校、名足小学校、歌津中学校については、継続して調査を行います。

# 請願・陳情・意見書

第5回定例会は、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する要望書」と「優良南三陸産材使用住宅建築支援に関する要望書」の2件が提出されました。その内容についてお知らせします。

## 公共建築物等における木材の利用の促進に関する要望書

森林は林産物の供給、国土の保全や水源かん養等の公益的機能を高度に発揮することが求められております。

戦後植林された造林地が成熟期に入り、森林資源の基盤が整い、木材が消費できる時代になりました。しかし、輸入材との競合等により、国産材は今や価格の低迷が長期化し、林業としての採算性は悪化の一途を辿っております。

木材の適切な供給及び利用の確保を通じた林業の持続的かつ健全な発展を図り、森林の適正な整備に寄与するため、「木材利用促進法」が5月26日に公布され11月に施行されます。

南三陸町に於かれましては、林業を巡る現状の厳しさと森林の重要性、公益性を改めてご確認いただき、森林の適正な整備及び木材の自給率の向上に寄与するためにも、本町計画の公共建築物等に対し、木材の利用促進していただきますようお願い申し上げます。（要約）

平成22年7月28日  
要望者  
南三陸森林組合  
代表理事組合長 佐藤 久一郎

## 優良南三陸産材使用住宅建築支援に関する要望書

近年森林・林業を取り巻く情勢は長引く不況の中、外材により木材価格は低迷の一途を辿っており、このままでは、森林所有者の経営意欲の衰退が荒廃林を増加させ、森林機能の低下があらゆる分野へ影響が生ずることが懸念されます。

地産地消の観点から町民の方々に優良な南三陸産材を使用して頂くことが経済活性化対策になり、森林の有する公益的機能の強化と木材需要拡大に繋がります。

つきましては、町内に居住用の住宅を南三陸産材使用によって新築・増改築した場合に、木材費用の一部を助成して戴きますようお願い申し上げます。（要約）

平成22年7月28日  
要望者  
南三陸森林組合  
代表理事組合長 佐藤 久一郎

審議の結果、この2件の要望書は採択され、執行機関に送付されました。

## 今後の委員会活動

- 総務常任委員会  
防災行政について  
町有財産の現状について
- 産業建設常任委員会  
産業振興について  
民生教育常任委員会  
保健行政について  
福祉行政について  
教育行政について  
医療行政について
- 議会運営委員会  
議会の運営に関する事項
- 議会広報に関する特別委員会  
議会広報及び公聴に関する調査
- 三陸縦貫自動車道建設促進に関する特別委員会  
三陸縦貫自動車道建設促進に関する調査
- 議会行財政改革に関する特別委員会  
議会における行財政改革に関する調査



# わたしの意見 あなたの提言

## 趣味を通じて

志津川 廻館 及川 真 司さん



私の趣味は釣りで、小学生の頃からやっています。その頃は、近くの川でアブラハヤやヤマメ釣りをしていました。ヤマメは非常に警戒心が強く、物音や人の影などにすぐく敏感な魚です。また、餌も自然に上流から流れて来たかのように演出しなければなりません。これがとても難しく、簡単には釣らせてくれないのです。しかし、その駆け引きが面白く、小学生の頃は近くの川に何度も足を運んだものです。県外に就職し、戻って来たのが9年前。随分自然が減り、海や川も昔とはかなり景色が変わっていました。しかし、釣り好きの私としては、海があるこの町に住めることを幸せに思っています。アブラハヤやヤマメが釣れる川がまだあることも嬉しく思っています。これからも大好きな釣りが出来るよう、町としても環境問題に力を入れてもらい、南三陸町の海や川がいつまでも美しくあることを願っています。

## 「合併から5年」地域の元気が一番

歌津 泊浜 三浦 弘 子さん



南三陸町が誕生して5年がたちました。合併協議会に携わった一人として、当時を思うと両町の大きなエネルギーシユな空気を感じ、責任の重さと緊張感を感じました。さて、最近身近に感じることは、子どもが少なくなつたことです。運動会では、空席が見られ応援も淋しく感じます。後継者のお嫁さんがいない事が一つの原因です。泊浜地区では、今年ヒマワリ祭りが開催され多くの観光客の方に足を運んでいただきました。猛暑の中、太陽に向かって咲くヒマワリに感動した一人です。今年6月に、踊りの好きな地元の子ども達と有志で「トマリーズ」を結成しました。週一回生活センターで踊りの練習を重ね、浜まつり、敬老会等に参加しています。ヒマワリ祭りでも演技披露をして大変喜んでいただきました。何事も地域の元気が一番だと思います。議員の皆さんには、町民の代表として広く耳を傾けていただき、議会運営に多くの町民の声を届けてほしいと思います。また、町長さんには、町のトップセールスマンとして手腕を発揮していただき、南三陸町が「活気ある元気な町」そして「誰もが住みやすい町」となるような町づくりを希望いたします。

## 編集後記



長い酷暑から一気に秋が深まり、今度は冬将軍が迫っています。まるで、今の不安定な厳しい世相を反映しているかのようです。

今議会では、21年度決算について活発な審議が行われました。また、10月21・22日に開催されました「議会と住民との懇談会」には、多数の皆さんにご出席をいただき、ありがとうございました。懇談会の内容や皆さんからの、ご質問・ご提言などは、次回の「議会だより」でお知らせすることになりますので、よろしくお願ひいたします。

委員 星 喜美男

